



## 平田直巳ごあいさつ 「地域の声をカタチに」を活動の原点に



磐田市議会議員  
平田 直巳

議員活動も4年目となります。市の課題や地域活性化に向けて取組ながら、日々多くのことを学ばせていただいています。

磐田市議会には3つの委員会(総務委員会、民生教育委員会、建設産業委員会)があります。私は総務委員会に所属し、「ダイバーシティ<sup>\*</sup>の推進」と「防災・減災」をテーマとして、市民の声や他市の先進事例等を参考に政策提言に向けて取組んでいます。

また、広報広聴委員会の副委員長としても活動をしています。今年度は「広聴」に重点を置き、市民の声を聞かせていただくため、議会報告会を「シティミーティング」と称して具体的テーマを設定し、ワークショップ形式で開催しました。当日は多くの方々のご参加のもと、様々なご意見をいただきましたので、これからの活動に活かしていきたいと考えています。

そして、私の所属する会派「せいわ会」でも、災害対策の強化や活力ある地域づくり、市民の利便性向上等、市の政策に関する7項目の要望書を市長に提出しました。

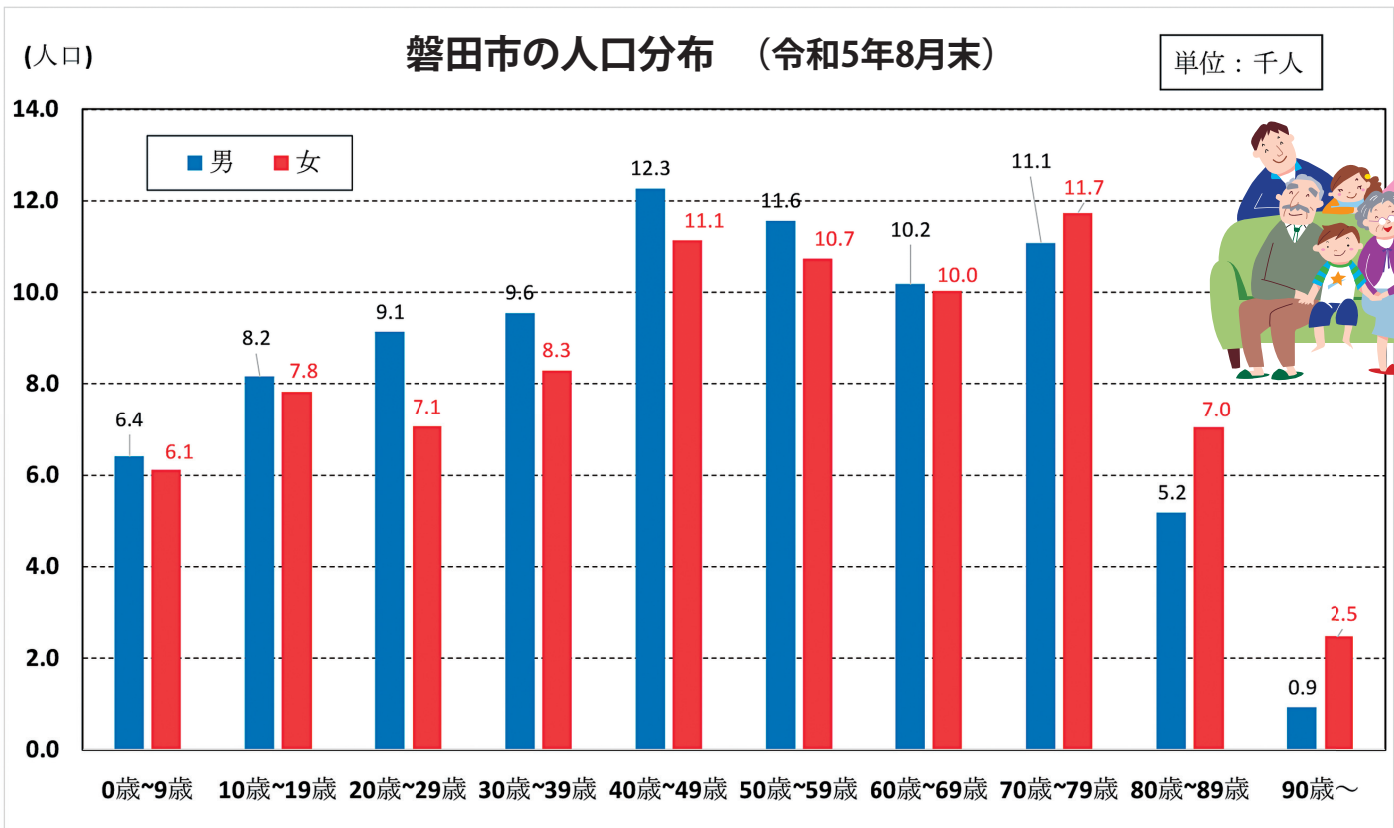
引続き市民の皆さんの声を聞き、どう解決していくかを考えて、将来にわたって安心・安全に暮らし続けることができる磐田市をつくっていただけるように活動してまいります。

※ダイバーシティとは、性別、年齢、障がいの有無、国籍など様々な違いを持った人々が、組織や集団において共存している状態をいいます。一人ひとりの人権が尊重され、多様性を認め合い、自分らしく暮らせる社会を目指していこうというものです。



せいわ会メンバーとともに「政策に関する要望書」を草地区市長宛てに提出

## 令和5年8月末の「磐田市の男女年齢別人口分布」をグラフにしました。



- 70歳代は団塊の世代、40歳代は団塊ジュニアとして人口が多くなっています。
- 全体では40歳より若い世代が徐々に減少傾向となっています。特に、20歳から30歳までの女性の減少がみられます。
- 女性から見て魅力ある磐田市を目指し、さらに働く場所が多くあることが必要だと思えます。

# 1.活動報告 (令和5年 7月以降)

## (1) 令和5年9月定例会 9月8日～10月13日 (36日間)

- 一般会計補正予算(第5号)の審査 500万円  
磐田市寺谷用水地域活性化協議会負担金 他
- 一般会計補正予算(第6号)の審査 2億9,461万8千円  
物価高騰対策事業の実施に伴う交付金の増額 他
- 令和4年度 一般会計歳入歳出決算の審査  
(歳出決算額)662億8,240万8千円
- 令和4年度 事業会計歳入歳出決算の審査  
(歳出決算額)314億3,332万1千円
- 令和4年度 公営企業会計歳入歳出決算の審査  
(支出総額)365億8,397万3千円
- 特別会計補正予算の審査
- 他4議案の審査 他

## (2) 令和5年11月定例会 11月24日～12月22日 (29日間)

- 一般会計補正予算(第7号)の審査 10億7,727万9千円  
子ども医療費の増に伴う助成額等の増額 他
- 一般会計補正予算(第8号)の審査 10億3,537万1千円  
電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金の支給に要する経費の増額 他
- 特別会計及び企業会計補正予算の審査
- 条例の制定(13本)についての審査 他
- 小・中学校給食費の無料化を求める請願の審査 他

## (3) 総務委員会

- ①委員会への(各種)付託議案審査
- ②所管事務調査
  - 1.ダイバーシティの推進  
10月16日～18日に、岡山県瀬戸内市、大阪府池田市、兵庫県尼崎市の先進事例を視察
  - 2.防災・減災

## (4) 広報広聴委員会(副委員長)

- ①議会だより「いわた羅針盤」の発行 (年5回)
- ②議会報告会  
10月29日(日)に市内3か所(豊岡中央交流センター、福田農村環境改善センター、iプラザ)にて「シティミーティング」を開催し40名の方にご参加をいただきました。また、意見交換の司会進行を「市民ファシリテーター」の方たちにお願しました。



## (5) 特別委員会

- 「(仮称)健幸づくり及び地域医療条例」検討特別委員会

## (6) その他:議員研修会、議員懇談会等

- 「世界かんがい施設遺産に登録された寺谷用水について理解する」をテーマに、寺谷コントロールセンター等の関連施設を視察研修しました。(令和5年11月16日)
- 緑十字機の不時着と本市との関わり等について、緑十字機不時着を語り継ぐ会の三浦代表から貴重なお話を伺いました。(令和5年11月20日)



# 2.一般質問 (令和5年 9月定例会)

**質** 天竜川河口部堤防の耐震性について。  
**答** 河川構造物の耐震性能照査指針解説の改訂により、天竜川河口部の一部堤防においてレベル2地震動の耐震性能再調査の必要性が生じました。

令和4年8月に国から説明を受けた際、市は早急に詳細な調査の実施と検証結果の報告を要望しております。国によると現在、堤防の耐震対策の必要性を確認するため、詳細な土質調査や検証を行っており、令和6年3月いっぱい耐震対策の検証をすとしていきます。

**質** 消防団の分団再編の検証とその結果及び課題について。  
**答** 45分団から28分団に再編したことにより、各分団に消防ポンプ車等を配備でき、分団ごとの人員増により出動人員の確保が容易となり、災害対応能力の向上が図られました。

また、津波浸水区域内の詰所や老朽化が著しい詰所等を統合・再配置をしたことにより、消防団活動拠点の充実も図られました。これまでに再編の影響による出動の遅延等はなく、災害対応に問題はないと認識しています。課題としては、再編当時から課題である消防団員の減少が現在も続いていることです。



**質** 消防団の分団編成編の検証結果による条例定数の見直しや団員確保への対策について

**答** 今後はコロナ禍後の社会活動、消防団活動の平常化により団員確保対策を推進するほか、新たに災害時の後方支援活動を主な任務とする消防団経験者による機能別消防団員制度\*の導入を検討し、団員の確保に努めていきます。これらの取組の結果と適正な団員数の検討を踏まえ、条例定数の見直しの必要性を考えていきます。

**※機能別消防団員制度とは、災害対応機能別団員と機能別ラッパ隊員で構成され、災害対応機能別団員は、基本消防団員のみでは人員不足が生じるような災害が発生した場合に、後方支援等に携わることで基本消防団員を補完する役割を担います。機能別ラッパ隊員は、行事や訓練等でのラッパ吹奏活動を行います。**

**質** 小中学校のプールの故障対応について

**答** 竜洋西小学校の大プールについては、学校の意見も聞いた結果として、令和4年度の実績から4年生から6年生は竜洋海洋センタープールで水泳の授業を実施することとしたため、令和5年度に修繕費を予算化しませんでした。また、令和6年度以降についても、現在、市全体の学校プールの在り方について検討しているところであり、しばらくは竜洋海洋センターなどを活用していくため修理計画はありません。なお、プールが壊れた場合の対応については、故障度合いにより修理や改修、ほかの学校や公営プールの活用等その都度対応を判断していきたいと考えています。なるべく早い段階で磐田市内全体のプールの未来像を絵に落としていきたいと考えています。



**質** 学校給食の地産地消率について

**答** 県の示している地産地消率の目標値は県内産の食材ベースで45%となっています。磐田市の令和4年度の市内産の地産地消率22.8%を県内産の食材ベースで算定しますと47.4%となり、磐田市は県の目標値を上回っている状況です。限られた食材費の中でいかにして地産地消の取組を推進していくかが課題となっています。



～ 磐田市に関する情報は「磐田市ホームページ」をご確認ください ～

平田直巳(せいわ会) 昭和34年1月生 磐田市豊岡(旧竜洋町)

**経歴**  
 浜松日体高等学校、中央大学、エンシュウ(株)  
 旧竜洋町消防団元団長、  
 竜洋西小学校元PTA会長、竜洋中学校元PTA会長  
 磐田市まとい会理事、竜洋空手スポーツ少年団長、  
 日本空手協会竜洋支部長、日本空手協会静岡県本部理事

日々の活動はこちらから! 平田直巳facebook

